

後援会事業実施報告書

佐々木 啓

歴史・考古学メジャーの日本近現代史ゼミでは、毎年夏季休暇中に、日本国内の史跡や博物館の見学を中心とした「ゼミ合宿」を行っています。日本全国に残る近現代史の史跡や博物館等での展示内容を、時間をかけて見て回ることで、通常の授業ではなかなかできない、歴史の“現場”を学ぶことができる、貴重な機会となっています。2024年度は、9月17日から20日の日程で、福岡県内および山口県下関市で合宿を行いました。参加者は、ゼミ担当教員1名と、4年生8名、3年生4名の、合計13名でした。

合宿初日（9月17日）は、午後博多駅に集合し、ホテルに荷物を置いた後、福岡城や赤煉瓦文化会館を見学し、福岡の地域史について学びを深めました。

2日目（9月18日）は、鉄道で門司港に向かい、旧大阪商船を見学した後、フェリーで対岸の下関まで移動し、唐戸市場、旧下関英国領事館、日清講和記念館などのフィールドワークを行い、地域からの視点に目を置いて、日清戦争の歴史について学びました。昼食は、フグの唐揚げや瓦焼きそばなどを食べました。その後、地下道を歩いて渡り、門司港に戻りました。

3日目（9月19日）は、博多まで戻り、さらに志賀島の西戸崎まで移動して、金印公園とその周辺のフィールドワークを行いました。夜は宿泊先のホテルの近くのお店でもつ鍋を食べました。

4日目（9月20日）は、太宰府天満宮と九州国立博物館を見学し、地域の歴史についてあらためて学習したあと、午後二時頃にホテルに戻り、全体のまとめをした後に、解散しました。

最高気温が38度になるなど、大変な酷暑のなかでの合宿となりましたが、福岡・下関の史跡を幅広くめぐり、地域の視点から歴史を考えるよい機会になったと思います。準備から実行までを学生主体で行い、ゼミ生相互のよい交流にもなりました。ご支援をいただいた人文社会科学部後援会に、改めてお礼申し上げたいと思います。

以 上





